

# アサリを増やす

## 天然アサリの子どもをとる

干潟のアサリの資源を調べると、10ミリに満たないような稚貝はたくさんいても、20ミリ以上に大きく育つ前にいなくなる例が多くみられます。

それでは、アサリが大きくなるために必要なものは何でしょうか？ それは海水のほかに、十分なエサ、呼吸するための酸素、もぐることのできる場所です。

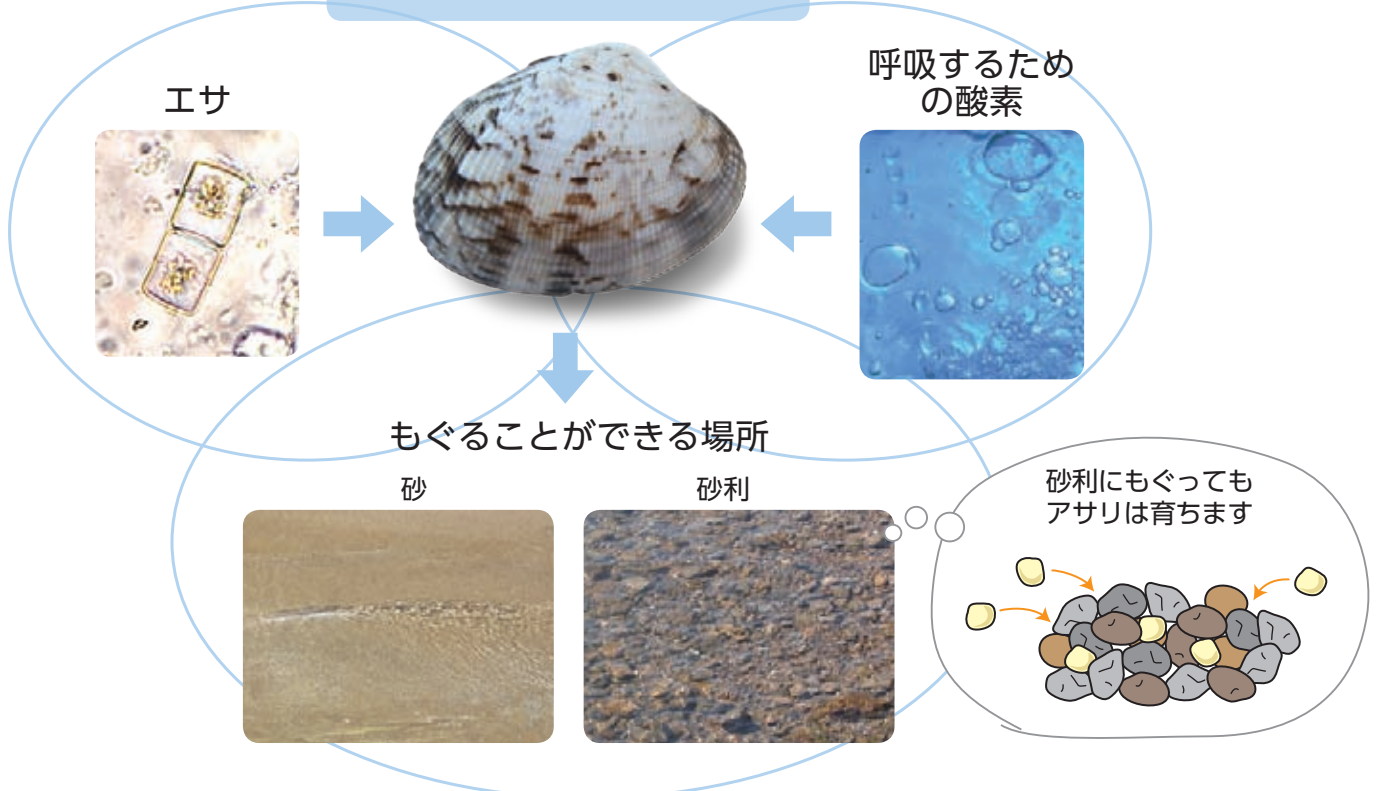
アサリは干潟の砂にいるイメージがあると思いますが、意外にも、砂利がたまっただよな浅瀬や、磯の潮だまりの砂利の中から見つけることが

あります。また、防波堤などの修理で沈めた砂利袋の中に浮遊幼生が入り込み、育つことも知られていました。

このように、アサリが育つには、もぐることができる場所があれば、必ずしも砂が必要なわけではありません。

そこで、砂の代わりに、カキ殻の再利用のために作られたカキ殻加工固形物が利用できないか、その効果を調べるため、砂利にカキ殻加工固形物を混ぜて網袋に入れて干潟に置いてみました。

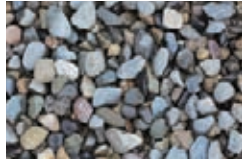
### アサリに必要なもの



カキ殻を砕いた粉末に製塩の副産物の水酸化マグネシウムを混ぜて水で練って丸め、乾燥させて固めたもので、肥料などに使われています



カキ殻加工固形物



砂利



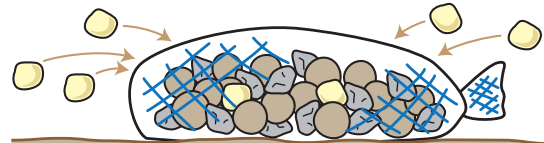
3ミリの網目の網袋に砂利とカキ殻加工固形物を入れて、干潟に並べました



網袋の中身をふるいにかけて、成長したアサリだけに選別できます。10ミリの網目のふるいなら20ミリ以上のアサリが残ります



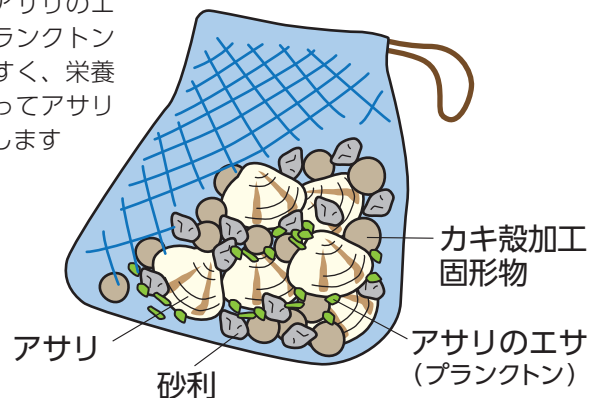
アサリの浮遊幼生が網袋の中に入って着底、小さい稚貝は網袋の中に潜り込みます



アサリは食害や波から守られ、網袋の中で安全に成長します



袋の中は、アサリのエサであるプランクトンがたまりやすく、栄養が豊かになってアサリがよく成長します



網袋に砂利とカキ殻加工固形物を詰めてアサリがほとんどいない干潟に置いておくだけで、網袋の中で大量のアサリが育つことがわかりました。この方法によって、天然のアサリの稚貝をとることができるようになりました。

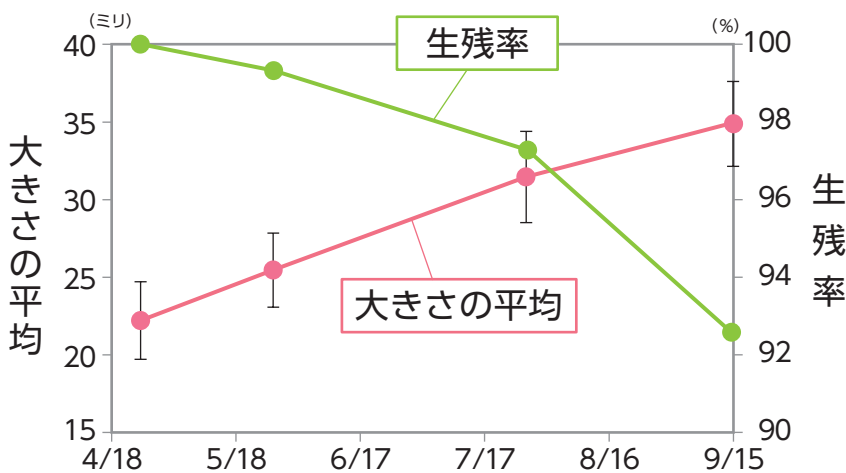
# アサリを養殖する

アサリは干潟の砂にもぐってはいませんが、カキやホタテガイのようにつり下げて養殖することができます。つり下げると、海水中の植物プランクトンをたくさん食べることができ、早く成長します。大きくなりっぱなしとなることから、

アサリの養殖は地域の特産物として新たな産業になってきています。また、天然のアサリに加え、養殖中のアサリも産卵するので、たくさんいかにの浮遊幼生が生まれ、アサリの資源が増えることも期待されます。



三重県鳥羽市浦村町はカキの養殖が盛んなため、カキ筏いかだを利用して、アサリをつり下げた養殖が行われています



22ミリの種貝が5カ月間で33ミリまで成長しました。この間の生存率は90%以上でした

鳥羽市浦村町における垂下養殖アサリの成長・生残の一例

三重県鳥羽市浦村町でのアサリの天然稚貝採取と垂下養殖の調査は、「研究の現場から」(20～23ページ)でも取り上げています。ご覧ください。